



近鉄鳥羽駅構内で3月28日、東日本大震災の被災地支援のため、鳥羽東中学校生徒会本部役員とボランティア組織「虹の会」のメンバー計9人が募金活動を実施しました。

大震災後、同校の生徒たちが被災者のために何ができるかを話し合った結果、この募金活動が行われることになりました。

生徒たちは、手作りの募金箱を手に「被災地への募金をお願いします!」と大きな声で呼び掛けていました。

少しでも役立てばうれしいです



「古民家海女の家五左屋」がオープン

女性の願いをひとつ叶えてくれると言われる神社として人気の石神さん(相差町・神明神社)の参道沿いに、3月17日、参拝者の休み処として「古民家海女の家五左屋」がオープンしました。

五左屋は昭和30年代に海女が暮らしていた家を再現して整備され、鳥羽産のカキを使った「かきポン酢」「かき醤油」などの地場産品や海女の魔除け「ドーマンセーマン」をモチーフにしたグッズなどを販売しています。今後は、海女がとってきた海藻やところてんなどの販売も予定されており、南鳥羽の新たな魅力として注目を集めそうです。

まちの話題 1月号



クラシックカーが鳥羽を走る

クラシックカーの祭典「ラ・フェスタ・プリマベラ」が、4月16日から20日にかけて開催され、三重県を含む2府3県の公道でラリーを繰り広げました。

17日に鳥羽市内を通過し、チェックポイントの鳥羽展望台には約40台のクラシックカーが一堂に会しました。

同大会にはタレントの堺正章さん、近藤真彦さんや元F1ドライバーの鈴木亜久里さんが参加し、大勢の見物人らは車が到着するたびに拍手や応援用のうちわを振って歓迎しました。



豊かな海の森を未来に届けたい

豊かな海の森を取り戻す活動を行っている一般社団法人「海っ子の森」(津市)と鳥羽国際ホテルが協力し、4月14日、佐田浜周辺の磯場で藻場の再生に取り組みました。

植林作業は、アラメの苗を取りつけた自然石を船上から沈め、ダイバーが海底に動かないように設置する方法で行われ、市水産研究所が考案したことから鳥羽工法と呼ばれています。

近年、さまざまな環境の変化により藻場が減少する「磯焼け」と呼ばれる現象が進んでおり、参加者はいつまでも鳥羽の海が豊かであることを願って「今後もこういった活動を継続していきたい」と語ってくれました。